

「仕事と家庭の両立支援にかかわる調査」
(調査シリーズ No. 37) の Read me

企業調査

本アーカイブデータの集計結果は、報告書に記載されている数値と一致します。ただし、報告書の結果と比較する際に注意が必要な箇所については以下に示しました。

1. スケール変数とカテゴリ変数における「無回答の扱い」について

スケール変数と、それをカテゴリ化した変数を併せて提供している場合の無回答に相当するケースの扱いは以下の通りです。

スケール変数では、値は「9999」とし、値ラベルは「無回答」と定義しており、あわせて欠損値指定をしています。

カテゴリ変数では、値は「9」とし、値ラベルは「無回答」と定義していますが、報告書に掲載されている集計表が再現できるように欠損値指定をしていません。

本アーカイブデータで提供している SPSS 形式のデータでは、次のようになっています。

区分	無回答の扱い		
	値	値ラベル	欠損値
スケール変数	9999	無回答	9999 を欠損値として指定
	該当する変数「q4_sq1」「q5_b」「q17_1_1」「q17_1_2」「q17_2_1」「q17_2_2」「f2_sq1」「f2_sq2」		
カテゴリ変数	9	無回答	—
	該当する変数「q4_sq1_ca」「q5_b_ca」「q17_1_1_ca」「q17_1_2_ca」「q17_2_1_ca」「q17_2_2_ca」「f2_sq1_ca」「f2_sq2_ca」		

2. 秘匿処理について

アーカイブデータでは、プライバシー・企業秘密にかかわる情報を保護しています。以下の設問に対するデータは、報告書に掲載されている集計表で用いられているカテゴリデータのみ公開しています。そのため、平均値は集計できません。

(1) 問 6(a) (2) 過去 3 年間の育児休業制度の利用人数 (女性) (変数名 : 「q6_a_2_ca」)

カテゴリ (数字は値ラベルの番号)						
1	2	3	4	5	6	7
0 人	1~2 人	3~4 人	5~9 人	10~19 人	20~49 人	50 人以上

(2) 問 6(b) (2) 過去 3 年間の育児休業制度の利用人数 (男性) (変数名 : 「q6_b_2_ca」)

カテゴリ (数字は値ラベルの番号)						
1	2	3	4	5	6	7
0 人	1~2 人	3~4 人	5~9 人	10~19 人	20~49 人	50 人以上

(3) 問 16 男性①初任時の平均年収 (変数名 : 「q16_1_1_ca」)

カテゴリ (数字は値ラベルの番号)							
1	2	3	4	5	6	7	8
200 万円未満	200~300 万円未満	300~400 万円未満	400~500 万円未満	500~600 万円未満	600~800 万円未満	800~1,000 万円未満	1,000 万円以上

(4) 問 16 男性②35 歳時の平均年収 (変数名 : 「q16_1_2_ca」)

カテゴリ (数字は値ラベルの番号)							
1	2	3	4	5	6	7	8
200 万円未満	200~300 万円未満	300~400 万円未満	400~500 万円未満	500~600 万円未満	600~800 万円未満	800~1,000 万円未満	1,000 万円以上

- (5) 問 16 女性①初任時の平均年収 (変数名:「q16_2_1_ca」)

カテゴリ (数字は値ラベルの番号)							
1	2	3	4	5	6	7	8
200 万円未満	200～300 万円未満	300～400 万円未満	400～500 万円未満	500～600 万円未満	600～800 万円未満	800～1,000 万円未満	1,000 万円以上

- (6) 問 16 女性②35 歳時の平均年収 (変数名:「q16_2_2_ca」)

カテゴリ (数字は値ラベルの番号)							
1	2	3	4	5	6	7	8
200 万円未満	200～300 万円未満	300～400 万円未満	400～500 万円未満	500～600 万円未満	600～800 万円未満	800～1,000 万円未満	1,000 万円以上

- (7) F1 全社員数 (変数名:「F1」)

カテゴリ (数字は値ラベルの番号)			
1	2	3	4
299 人以下	300～499 人	500～999 人	1,000 人以上

- (8) F2 男性正社員 (変数名:「f2_1_ca」)

カテゴリ (数字は値ラベルの番号)						
1	2	3	4	5	6	7
0 人	1～99 人	100～199 人	200～499 人	500～999 人	1,000～1,999 人	2,000 人以上

- (9) F2 男性係長・主任相当職 (変数名:「f2_1_1_1_ca」)

カテゴリ (数字は値ラベルの番号)							
1	2	3	4	5	6	7	8
0 人	1～9 人	10～19 人	20～49 人	50～99 人	100～199 人	200 人以上	該当する役職がない

- (10) F2 男性課長相当職 (変数名:「f2_1_1_2_ca」)

カテゴリ (数字は値ラベルの番号)							
1	2	3	4	5	6	7	8
0 人	1～9 人	10～19 人	20～49 人	50～99 人	100～199 人	200 人以上	該当する役職がない

- (11) F2 男性部長相当職 (変数名:「f2_1_1_3_ca」)

カテゴリ (数字は値ラベルの番号)							
1	2	3	4	5	6	7	8
0 人	1～9 人	10～19 人	20～49 人	50～99 人	100～199 人	200 人以上	該当する役職がない

- (12) F2 男性平均年齢 (変数名:「f2_1_2_ca」)

カテゴリ (数字は値ラベルの番号)						
1	2	3	4	5	6	7
25 歳未満	25～30 歳未満	30～35 歳未満	35～40 歳未満	40～45 歳未満	45～50 歳未満	50 歳以上

- (13) F2 男性平均勤続年数 (変数名:「f2_1_3_ca」)

カテゴリ (数字は値ラベルの番号)					
1	2	3	4	5	6
3年以下	4～5年	6～10年	11～15年	16～20年	21年以上

- (14) F2 女性正社員 (変数名:「f2_2_ca」)

カテゴリ (数字は値ラベルの番号)						
1	2	3	4	5	6	7
0人	1～99人	100～199人	200～499人	500～999人	1,000～1,999人	2,000人以上

- (15) F2 女性係長・主任相当職 (変数名:「f2_2_1_1_ca」)

カテゴリ (数字は値ラベルの番号)							
1	2	3	4	5	6	7	8
0人	1～9人	10～19人	20～49人	50～99人	100～199人	200人以上	該当する役職がない

- (16) F2 女性課長相当職 (変数名:「f2_2_1_2_ca」)

カテゴリ (数字は値ラベルの番号)							
1	2	3	4	5	6	7	8
0人	1～9人	10～19人	20～49人	50～99人	100～199人	200人以上	該当する役職がない

- (17) F2 女性部長相当職 (変数名:「f2_2_1_3_ca」)

カテゴリ (数字は値ラベルの番号)							
1	2	3	4	5	6	7	8
0人	1～9人	10～19人	20～49人	50～99人	100～199人	200人以上	該当する役職がない

- (18) F2 女性平均年齢 (変数名:「f2_2_2_ca」)

カテゴリ (数字は値ラベルの番号)						
1	2	3	4	5	6	7
25歳未満	25～30歳未満	30～35歳未満	35～40歳未満	40～45歳未満	45～50歳未満	50歳以上

- (19) F2 女性平均勤続年数 (変数名:「f2_2_3_ca」)

カテゴリ (数字は値ラベルの番号)					
1	2	3	4	5	6
3年以下	4～5年	6～10年	11～15年	16～20年	21年以上

- (20) F2 正社員数 (変数名:「f2_kibo_ca」)

カテゴリ (数字は値ラベルの番号)			
1	2	3	4
500人未満	500～1,000人未満	1,000～2,000人未満	2,000人以上

- (21) F3 男性新卒者 (変数名:「f3_1_1_ca」)

カテゴリ (数字は値ラベルの番号)						
1	2	3	4	5	6	7
0人	1～4人	5～9人	10～19人	20～49人	50～99人	100人以上

(22) F3 男性新卒者のうち大卒以上 (変数名:「f3_1_2_ca」)

カテゴリ (数字は値ラベルの番号)						
1	2	3	4	5	6	7
0 人	1～4 人	5～9 人	10～19 人	20～49 人	50～99 人	100 人以上

(23) F3 男性中途採用者 (変数名:「f3_1_3_ca」)

カテゴリ (数字は値ラベルの番号)						
1	2	3	4	5	6	7
0 人	1～4 人	5～9 人	10～19 人	20～49 人	50～99 人	100 人以上

(24) F3 女性新卒者 (変数名:「f3_2_1_ca」)

カテゴリ (数字は値ラベルの番号)						
1	2	3	4	5	6	7
0 人	1～4 人	5～9 人	10～19 人	20～49 人	50～99 人	100 人以上

(25) F3 女性新卒者のうち大卒以上 (変数名:「f3_2_2_ca」)

カテゴリ (数字は値ラベルの番号)						
1	2	3	4	5	6	7
0 人	1～4 人	5～9 人	10～19 人	20～49 人	50～99 人	100 人以上

(26) F3 女性中途採用者 (変数名:「f3_2_3_ca」)

カテゴリ (数字は値ラベルの番号)						
1	2	3	4	5	6	7
0 人	1～4 人	5～9 人	10～19 人	20～49 人	50～99 人	100 人以上

(27) F5①売上高 (変数名:「f5_1_ca」)

カテゴリ (数字は値ラベルの番号)					
1	2	3	4	5	6
10 億円未満	10 億～100 億円未満	100 億～1,000 億円未満	1,000 億～5,000 億円未満	5,000 億～1兆円未満	1 兆円以上

(28) F5②経常利益 (変数名:「f5_2_ca」)

カテゴリ (数字は値ラベルの番号)					
1	2	3	4	5	6
マイナス	～10 億円未満	10 億～100 億円未満	100 億～1,000 億円未満	1,000 億～5,000 億円未満	5,000 億円以上

(29) F8 会社設立年 (変数名:「f8_2_ca」)

カテゴリ (数字は値ラベルの番号)						
1	2	3	4	5	6	7
1949 年以前	1950～1959 年	1960～1969 年	1970～1979 年	1980～1989 年	1990～1999 年	2000 年以降

3. 過去3年間の男性の育児休業利用 (変数名:「q6_b_go」)

調査票では「過去3年間の男性の育児休業利用」の状況をたずねる設問はありませんが、報告書集計表の表側に集計データが掲載されているため、調査票の問6(b)(1)の「過去3年間の出産者の有無」の回答と問6(b)(2)の「過去3年間の利用人数」の回答をもとに、以下の方法で変数を作成し、変数名「q6_b_go」(合成変数)として公開しています。

調査票の設問	問6(b) (1)過去3年間の出産者の有無 (変数名:「q6_b_1」)	問6(b) (2)過去3年間の利用人数 (変数名:「q6_b_2_ca」)	過去3年間の男性の育児休業利用 (変数名:「q6_b_go」) (利用者が)「いる」 (利用者が)「いない」
回答のケース	「1. 配偶者が出産した者がいる」を選択	1人以上の人数を記入した場合	
	「1. 配偶者が出産した者がいる」を選択	0人と記入した場合	
	「2. 配偶者が出産した者がいない」を選択	—	

4. 女性社員比率 (変数名:「f2_hiritu_ca」)

調査票では女性社員比率をたずねる設問はありませんが、報告書集計表の表側に集計データが掲載されているため、F2の女性正社員数を正社員数(男性正社員数と女性正社員数の合計)で割り、カテゴリ化したものを女性社員比率として公開しています。内容は以下の通りです。

カテゴリ (数字は値ラベルの番号)				
1	2	3	4	5
～10%未満	10～20%未満	20～30%未満	30～50%未満	50%以上

5. 企業番号 (変数名:「code」)

企業調査のデータには、企業コード (code) がふられています。また、管理職調査と一般社員調査のデータにも、企業コード (code) がふられています。詳しくは管理職調査と一般社員調査の read me をご覧ください。

「仕事と家庭の両立支援にかかわる調査」
 (調査シリーズ No. 37) の Read me

管理職調査

本アーカイブデータの集計結果は、報告書に記載されている数値と一致します。ただし、報告書の結果と比較する際に注意が必要な箇所については以下に示しました。

1. スケール変数とカテゴリ変数における「無回答の扱い」について

スケール変数と、それをカテゴリ化した変数を併せて提供している場合の無回答に相当するケースの扱いは以下の通りです。

スケール変数では、値は「9999」とし、値ラベルは「無回答」と定義しており、あわせて欠損値指定をしています。

カテゴリ変数では、値は「9」または「99」とし、値ラベルは「無回答」と定義していますが、報告書に掲載されている集計表が再現できるように欠損値指定をしていません。

本アーカイブデータで提供している SPSS 形式のデータでは、次のようになっています。

区分	無回答の扱い		
	値	値ラベル	欠損値
スケール変数	9999	無回答	9999 を欠損値として指定
	該当する変数「q1_a」「q1_a_go」「q1_b1」「q1_b2」「q1_f_1」「q1_f_2」「q1_f_go」「q1_i」「q1_k_go」「f1_b」「f1_e_1」「f1_e_sq1_1」「f1_e_sq1_2」「f2_a」「f2_f」「f2_g_go」		
カテゴリ変数	9 または 99	無回答	—
	該当する変数 ・無回答の値が 9 「q1_a_ca」「q1_a_go_ca」「q1_b1_ca」「q1_b2_ca」「q1_f_1_ca」「q1_f_2_ca」「q1_f_go_ca」「q1_i_ca」「q1_k_go_ca」「f1_b_ca」「f1_e_1_ca」「f2_a_ca」「f2_f_ca」「f2_g_go_ca」 ・無回答の値が 99 「f1_e_sq1_1_ca」「f1_e_sq1_2_ca」		

2. 秘匿処理について

アーカイブデータでは、プライバシー・企業秘密にかかわる情報を保護しています。以下の設問に対するデータは、次のそれぞれの方法により秘匿処理をしています。

(1) 問 1h 年収 (変数名:「q1_h_ca1」、「q1_h_ca2」)

報告書に掲載されている集計表で用いられているカテゴリ (集約カテゴリ) データと、階層区分を詳細化したカテゴリ (詳細カテゴリ) データを公開しています。平均値は集計できません。

区分	カテゴリ (数字は値ラベルの番号)					
集約カテゴリ (報告書掲載カテゴリ)	1	2	3	4	5	
	400 万円未満	400～600 万円未満	600～800 万円未満	800～1,000 万円未満	1,000 万円以上	
詳細カテゴリ	1	2	3	4	5	6
	400 万円未満	400～600 万円未満	600～800 万円未満	800～1,000 万円未満	1,000～1,200 万円未満	1,200 万円以上

(2) F2d 配偶者の年収 (変数名:「f2_d_ca」)

報告書に掲載されている集計表で用いられているカテゴリデータのみ公開しています。そのため、平均値は集計できません。

カテゴリ (数字は値ラベルの番号)							
1	2	3	4	5	6	7	8
収入なし	200 万円未満	200～300 万円未満	300～400 万円未満	400～600 万円未満	600～800 万円未満	800～1,000 万円未満	1,000 万円以上

3. 勤続年数 (変数名:「q1_a_go_ca」)

調査票では勤続年数をたずねる設問はありませんが、報告書集計表の表頭に集計データが掲載されているため、本調査の調査年(2006年)から問1aの現在の会社の入社年を差し引いて、カテゴリ化したものを勤続年数として公開しています。内容は以下の通りです。

カテゴリ (数字は値ラベルの番号)			
1	2	3	4
5年未満	5～10年未満	10～20年未満	20年以上

4. 問1k 通勤時間 (変数名:「q1_k_go」)

通勤時間(○時間○分)を「分数(○分)」換算した変数を、変数名「q1_k_go」(合成変数)として掲載しています。

5. 夫の家事分担割合 (変数名:「f2_f_go」)

調査票では夫の家事分担割合をたずねる設問はありませんが、報告書集計表の表頭に集計データが掲載されているため、F1aの性別の回答とF2fの配偶者の家事分担割合の回答をもとに、夫の家事分担割合を集計し、その結果を変数名「f2_f_go」(合成変数)として公開しています。以下の表をご覧ください。また、報告書302頁下の※印も参考にしてください。

設問	F1a (変数名「f1_a」) 性別	F2f (変数名「f2_f」) 夫婦の家事・育児時間の合計を100とすると、配偶者の家事・育児時間は何%ぐらいですか。	(変数名「f2_f_go」) 夫の家事分担割合
集計方法(例)	1(男性)の場合	70%	30% 夫の家事分担割合を以下のよう に計算します。 夫婦の家事分担割合(100)－ 妻の家事分担割合(70)＝30
		妻の家事分担割合を回答していることとなります。	
	2(女性)の場合	20%	20%
		夫の家事分担割合を回答していることとなります。	F2fの回答を夫の家事分担割合とします。

6. F2g 配偶者との生活時間 (変数名:「f2_g_go」)

配偶者との生活時間(○時間○分)を「分数(○分)」換算した変数を、変数名「f2_g_go」(合成変数)として掲載しています。

7. 企業コード (変数名:「code」)

管理職データには、企業コード(code)がふられていて、企業データと対応できるようになっています。

(注) 各企業に対する管理職データは最大で5データとなっています。

8. 企業規模 (変数名:「kf1_ca」)

管理職データには、企業調査のF1(全社員数をたずねる設問)の変数を割り振っています。なお、管理職調査の報告書掲載集計表において、当該変数の「企業規模」を示すカテゴリが表側に掲載されています。

また、報告書235頁～304頁の集計表の表側に掲載されている「F2_企業規模(企業調査)」の表現は、正しくは「F1_企業規模(企業調査)」です。表側には、企業調査のF1(全社員数をたずねる設問)が掲載されています。

9. 過去3年間の男性の育児休業利用 (変数名:「kq6_b_go」)

管理職データには、企業調査の「過去3年間の男性の育児休業利用」の変数を割り振っています。なお、管理職調査の報告書掲載集計表において、当該変数が表側に掲載されています。詳しくは「企業調査」のread meをご覧ください。

「仕事と家庭の両立支援にかかわる調査」
 (調査シリーズ No. 37) の Read me

一般社員調査

本アーカイブデータの集計結果は、報告書に記載されている数値と一致します。ただし、報告書の結果と比較する際に注意が必要な箇所については以下に示しました。

1. スケール変数とカテゴリ変数における「無回答の扱い」について

スケール変数と、それをカテゴリ化した変数を併せて提供している場合の無回答に相当するケースの扱いは以下の通りです。

スケール変数では、値は「9999」とし、値ラベルは「無回答」と定義しており、あわせて欠損値指定をしています。

カテゴリ変数では、値は「9」または「99」とし、値ラベルは「無回答」と定義していますが、報告書に掲載されている集計表が再現できるように欠損値指定をしていません。

本アーカイブデータで提供している SPSS 形式のデータでは、次のようになっています。

区分	無回答の扱い		
	値	値ラベル	欠損値
スケール変数	9999	無回答	9999 を欠損値として指定
	該当する変数「q1_a」「q1_a_go」「q1_sq1」「q1_sq2」「q1_i」「q1_k_go」「f1_b」「f1_e_1」「f1_e_sq1_1」「f1_e_sq1_2」「f2_a」「f2_f」「f2_g_go」		
カテゴリ変数	9 または 99	無回答	—
	該当する変数 ・無回答の値が 9 「q1_a_ca」「q1_a_go_ca」「q1_b_sq1_ca」「q1_b_sq2_ca」「q1_i_ca」「q1_k_go_ca」「f1_b_ca」「f1_e_1_ca」「f2_a_ca」「f2_f_ca」「f2_g_go_ca」 ・無回答の値が 99 「f1_e_sq1_1_ca」「f1_e_sq1_2_ca」		

2. 秘匿処理について

アーカイブデータでは、プライバシー・企業秘密にかかわる情報を保護しています。以下の設問に対するデータは、報告書に掲載されている集計表で用いられているカテゴリデータのみ公開しています。そのため、平均値は集計できません。

(1) 問 1h 年収 (変数名:「q1_h_ca」)

カテゴリ (数字は値ラベルの番号)					
1	2	3	4	5	6
300 万円未満	300～400 万円未満	400～600 万円未満	600～800 万円未満	800～1,000 万円未満	1,000 万円以上

(2) F2d 配偶者の年収 (変数名:「f2_d_ca」)

カテゴリ (数字は値ラベルの番号)							
1	2	3	4	5	6	7	8
収入なし	200 万円未満	200～300 万円未満	300～400 万円未満	400～600 万円未満	600～800 万円未満	800～1,000 万円未満	1,000 万円以上

3. 勤続年数 (変数名:「q1_a_go_ca」)

調査票では勤続年数をたずねる設問はありませんが、報告書集計表の表頭に集計データが掲載されているため、本調査の調査年 (2006 年) から問 1a の現在の会社への入社年を差し引いて、カテゴリ化したものを勤続年数として公開しています。内容は以下の通りです。

カテゴリ (数字は値ラベルの番号)			
1	2	3	4
5 年未満	5～10 年未満	10～20 年未満	20 年以上

4. 問 1k 通勤時間 (変数名:「q1_k_go」)

通勤時間 (○時間○分) を「分数 (○分)」換算した変数を、変数名「q1_k_go」(合成変数) として掲載しています。

5. 夫の家事分担割合 (変数名:「f2_f_go」)

調査票では夫の家事分担割合をたずねる設問はありませんが、報告書集計表の表頭に集計データが掲載されているため、F1a の性別の回答と F2f の配偶者の家事分担割合の回答をもとに、夫の家事分担割合を集計し、その結果を変数名「f2_f_go」(合成変数) として公開しています。以下の表をご覧ください。また、報告書 360 頁下の※印も参考にしてください。

設問	F1a (変数名「f1_a」) 性別	F2f (変数名「f2_f」) 夫婦の家事・育児時間の合計を 100 とすると、配偶者の家事・育児時間は何%ぐらいですか。	(変数名「f2_f_go」) 夫の家事分担割合
集計方法 (例)	1 (男性) の場合	70%	30% 夫の家事分担割合を以下のように計算します。 夫婦の家事分担割合 (100) - 妻の家事分担割合 (70) = 30
		妻の家事分担割合を回答していることとなります。	
	2 (女性) の場合	20%	20% F2f の回答を夫の家事分担割合とします。
		夫の家事分担割合を回答していることとなります。	

6. F2g 配偶者との生活時間 (変数名:「f2_g_go」)

配偶者との生活時間 (○時間○分) を「分数 (○分)」換算した変数を、変数名「f2_g_go」(合成変数) として掲載しています。

7. 企業コード (変数名:「code」)

一般社員データには、企業コード (code) がふられていて、企業データと対応できるようになっています。

(注) 各企業に対する一般社員データは最大で 10 データとなっています。

8. 企業規模 (変数名:「kf1_ca」)

一般社員データには、企業調査の F1 (全社員数をたずねる設問) の変数を割り振っています。なお、一般社員調査の報告書掲載集計表において、当該変数の「企業規模」を示すカテゴリが表側に掲載されています。

また、報告書 307 頁～362 頁の集計表の表側に掲載されている「F2_企業規模 (企業調査)」の表現は、正しくは「F1_企業規模 (企業調査)」です。表側には、企業調査の F1 (全社員数をたずねる設問) が掲載されています。

9. 過去 3 年間の男性の育児休業利用 (変数名:「kq6_b_go」)

一般社員データには、企業調査の「過去 3 年間の男性の育児休業利用」の変数を割り振っています。なお、一般社員調査の報告書掲載集計表において、当該変数が表側に掲載されています。詳しくは「企業調査」の read me をご覧ください。